国土審議会第 16 回計画部会　欠席に代わる意見提出。

委員　畝本恭子

資料１は、相当な分量ではあるものの、第二次国土形成計画の諸課題とそれらに対する解が整理されています。これまでの議論が凝縮されており、その中から理解しやすい部分をピックアップして読み手の方がイメージをつくりやすい資料も入れていただいています。（リニアの整備に裏打ちされた、三大都市圏のネットワークなど）。ただ、29 ページの下の枠の多様な暮らし方例は、詰込み過ぎという感想です。「時間的（物理的）に可能」、というような表現の方が良いように思います。（7.5～8 時間/日働くことが前提ではないのかもしれませんが、コンサートのあと、通勤電車経由でリニアに乗って、地元に帰って BBQ は、相当、タイトに見えます。東京の交通機関は、この時点では混雑も緩和されているかもしれませんが。）

国土計画は、夢・希望で彩られたものであってほしいと思います。

ただ、一方で、確実な問題解決、前進のためには、個人的には、国土形成計画の前提として、資料１－２、‘現状とリスク’の共有が必要と考えます。最終まとめのときには、この領域も、ビジーなスライドではなく、多くのみなさんに、わかりやすく表現していただければと思います。

そのうえで、戦略的視点（17 ページ）の具体性が必要かと思います。たとえば、左上、官民連携の‘民’は、いろいろな対象を包含していると思います。民間企業では、経営基盤が安定した大手企業と、地域に根付く中小企業とでは果たす役割が異なるとイメージされますし、国民一人一人が国土形成に参加し、影響するという意識を醸成する必要があり、それを‘官’が尊重し、サポートすることが肝要かと思います。これが、人材の育成、確保にもつながるのではないでしょうか。仕事や生活に追われると、人は、目先の質や量にしか意識が届きません。現在の、フードロスをはじめとする SDG s の機運と同様に、国民に全体を見渡せるような情報提供があってほしいと思います。また、右下の横串の発想も大切な戦略のひとつですが、現存する様々な規制や古くからの規定などを検討、場合によっては撤廃、改善していくには、民間の分野より垣根が高い‘官’の横串が必要かと思います。すでに、連携されている分野もあるかと思いますが、できれば、例示していただけると、（〇〇の課題に対して、〇〇省と××省の協働→〇〇構想の推進、のような）、国民のみなさんの理解も得られ、そして、希望も芽生えるかと思います。

とりとめなくなりましたが、頂いた資料、ご説明につき、意見を述べさせていただきました。